

2月末に新しいみどり病院が完成しました

医療法人岐阜勤労者医療協会 専務理事 大橋 正和



1月1日に発生した能登半島地震により、犠牲となられた方々におくやみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。当法人といしましては義捐金の取り組みをおこなうとともに、同じ全日本民医連に加盟している石川民医連を通じて人的および物資支援などを継続的にこなしているところですが、

2月末に当初の計画通り、新しいみどり病院が完成いたしました。3月に入ると、医療機器や備品の搬入が始まります。4月には、まったく新しい病院環境のもとで、スムーズに患者様の治療が

おこなえるよう、外来や病棟でのテスト運用をおこなったり、また入院患者様を安全に新病院へご移送するためのシミュレーションも複数回おこない、万全な準備のもとで5月のオープンを迎える予定です。

『地域にひらかれた、みんなにやさしい病院』をコンセプトに、2020年度より新病院の建設計画をすすめてまいりました。岐阜健康友の会の皆様、長きにわたり当法人の運営にご参画いただいていることで実現できたものであり、深く感謝を申し上げます。4月14日には地域の方向けの内覧会を予定していますので、一緒に完成を喜び合いたいと思っております。詳細につきましては今号同封のお知らせをご覧ください。



岐阜民医連の有機フッ素化合物(PFAS)汚染への取り組みについて

岐阜民医連 事務局長 土井 正則

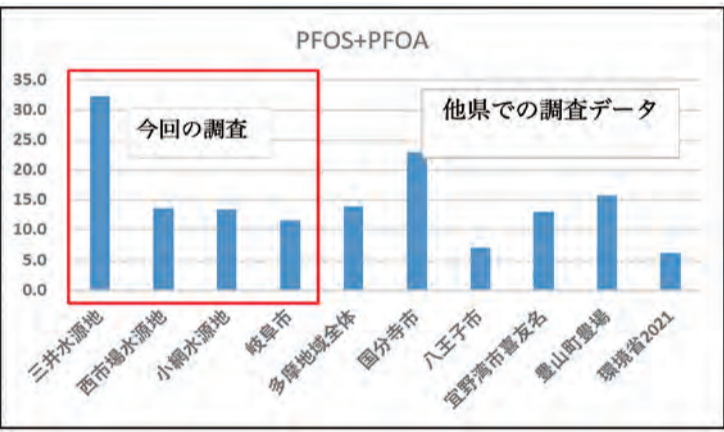
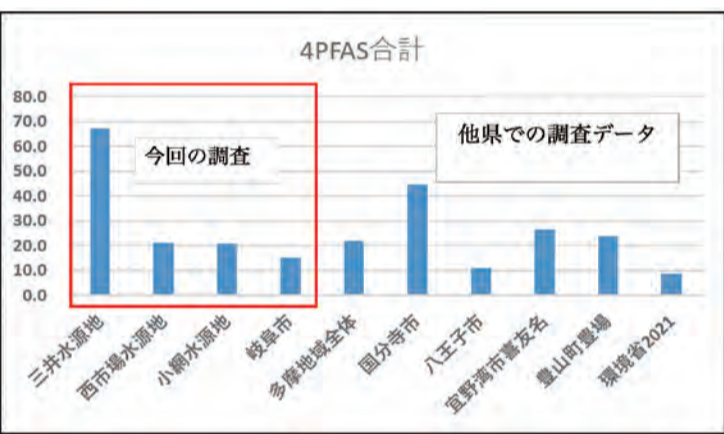
現在、有機フッ素化合物(PFAS)の地下水や河川の汚染について全国各地でホットスポットが報告されています。各務原市でも昨年7月に水道水のPFAS汚染が公表され、汚染対策や健康調査を求める住民の声が広がっています。

岐阜民医連では、これまでも労災職業病、アスベスト、被爆者医療などの健康問題に対し、絶えず患者・住民の立場にたって取り組みをすすめてきました。今回のPFAS問題も民医連の社会的使命として取り組むことを確認し、各務原市でのPFASによる水道水の汚染に対して、京都大学の協力を得て、

各務原市および周辺住民131名、そのうち三井水源配水域住民100名のPFAS血中濃度の測定を実施しました。結果は、PFOSやPFHxSなど測定したPFASすべての項目で三井水源の方が他の地域の方よりも数倍高く、東京都多摩地域など全国で報告されている他の地域と比較しても高い結果となりました。さらに健康への影響に注意が必要とされる米国アカデミーの基準であるPFAS合計が20ng/mL以上の方は、三井水源では100名中91名で、9割以上の方がこれに該当しており、長期にわたる水道水の高濃度汚染とも

に、住民の健康不安への深刻さが明らかになりました。結果を受けて、各務原市と懇談を行い、①PFAS血液検査の実施体制の整備、②住民の疫学的な健康調査の実施と健康相談窓口の設置、③汚染源調査などを要請しました。市も今回の結果を重く受け止め、血液検査実施機関の調査など姿勢の変化が生まれています。

また、1月からみどり病院と華陽診療所でPFAS健康相談外来(完全予約制)を開設し、今回検査を受けた方々の継続的な健康相談・健康調査に取り組んでいます。



地域	PFOS	PFOA	PFHxS	PFNA	FOS+PFO	4PFAS合計
三井水源地	100	26.0	6.3	28.3	6.8	32.2
西市場水源地	17	9.8	3.8	4.4	3.4	13.6
小綱水源地	5	9.3	4.2	4.1	3.4	13.5
岐阜市	19	8.6	3.1	1.0	2.7	11.6
多摩地域全体	791	10.3	3.7	4.7	3.4	13.9
国分寺市	85	16.5	6.5	17.5	4.1	23.0
八王子市	14	5.0	2.1	2.0	2.2	7.1
宜野湾市喜友名	50	11.0	2.0	11.7	1.9	13.0
豊山町豊場	37	12.6	3.2	5.6	2.5	15.8
環境省2021	119	3.9	2.2	1.0	1.6	6.1

健康 春秋

雑誌「世界」を毎朝十頁ほど読むのが習慣になっています。一つの文章は約十頁、「世界」のページ数は約三百頁。それで1か月かけて読み切るようにしています。▼その「世界」が1月号から新しい女性の編集長に変わり、体裁が変わり、女性の執筆者が増えているようです▼「世界」の創刊は一九四六年、初代の編集長は「君たちはどう生きるか」の著者でもある吉野源三郎。今回、「世界」の読者としての大江健三郎の「持続する志」と「再び持続する志」というかつて一九六六年と一九七一年に掲載された文章が再録されています▼反核と憲法・平和と民主主義とアジアへの視座、この基軸は揺るがず、基本的には、新しい「世界」にも継承されているようです。▼もちろん幅広い読者の支持がなければ、雑誌の発行が継続することは不可能なので、時代とともに変化する側面はあるようです▼大江が言及することの多い私の哲学者サルトルに次のような言葉があります。「世界は醜く、不正で希望がないように見える。だが、私はこれに抵抗する。希望の未来をかたかなければならない」一九八〇年に亡くなった彼は、もちろんウクライナやガザの事実を知る由もないが、歴史はなかなかよくはなっていない▼しかし、この「希望の未来を語る」こと、それを学ぶために、「世界」を読み続けたいと思います。そして行動すること。「持続する志」を失わずに、自身の希望を語り続けること。(K)